

NPO 自立支援センター ふるさとのかい

2008.10.25
【第10号】



これはHTML形式
のMAILです。
オンラインで無い場合
は画像が表示され
ない可能性があります。

HOME PAGE

SCHEDULE

EVENTs

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

INDEX

1. 第15回ふるさとの会主催シンポジウム2008のご報告
2. 平成20年度山谷地区敬老会に参加して
3. 帰宅困難者対応訓練参加報告
4. 厚労省科研研究会にて事業説明
5. ヘルパーステーション・宿泊所合同研修『疥癬』
6. 今月のボランティア

1. シンポジウム「高齢低所得者の居住支援と地域ケアネットワークの広がり」

—中間施設利用者の〈重篤化〉を踏まえて—

10月13日体育の日、すみだ生涯学習センター「ユートリア」にて、ふるさとの会は毎年恒例のシンポジウムを開催。第15回を迎える今年には理事長の世代交代後初めてのシンポジウムとなり、テーマを『高齢低所得者の居住支援ネットワークの広がり—中間施設利用者の〈重篤化〉を踏まえて—』とし、居住確保、地域ケアのネットワーク化、対人援助を三つの柱に据えて、多様な生を支えていく地域社会のあり方について議論しあう場となりました。当日は、行政関係、医療、企業、支援団体、研究者など様々な分野から200名の方々が参加され、立ち見となるほどの盛況ぶりでした。

【日時】2008年10月13日(月・体育の日) 13:30開演(13時開場)

【会場】すみだ生涯学習センター「ユートリア」

【プログラム】

- 開演・主催者挨拶
 - 基調講演「病院が地域ケア連携のためにできること—利点と限界を見据える」
本田 徹 氏 浅草病院医師
／NPO法人シェア＝国際保健協力市民の会 代表理事
 - 実践報告「地域とともに、人を支援することについて」
田辺 登 自立援助ホームふるさとホテル三晃責任者
 - パネルディスカッション「居住支援と地域ケアネットワークの広がり」
上原 隆夫 氏 新宿区福祉部生活福祉課相談係長
坂本 千秋 氏 東京都福祉保健局生活福祉部保護課指導係指導担当係長
佐久間 裕章 NPO法人自立支援センターふるさとの会代表理事
本田 徹 氏 浅草病院医師 NPO法人シェア 代表理事
山下 真実子 氏 NPO法人訪問看護ステーションコスモス代表理事
(五十音順、所属は2008年8月現在)
- コーディネーター: 瀧脇 憲 ふるさとの会理事

シンポジウムの全体像に触れる余裕はないのですが、ここでぜひとも特記しておきたいのは、出席された方々から発せられる『連携』という一語が、複数の声からなる対話のなかで交錯しあい、具体性と重みを帯びて会場内に響き渡っていたことです。

たとえば本田徹氏の、社会的退院後の帰宅先確保が困難な方々の受け皿となる場の構築のための連携が必要との訴えに呼応するかのよう、田辺登は、その受け皿として機能しているふるさとホテル三晃での自立支援を成功させていくためには、社会サービスとの連携が必須であると主張。この主張を踏まえたうえで、山下真実子氏は、多職種の連携行為によって生活が安定した成功事例を報告し、上原隆夫氏は、連携のネットワークを都全体へと展開することの切迫性を訴えました。

このような対話が繰り返されたこと自体、すでに連携がなされていることの証左なのですが、この連携の重要性の確認は、シンポジウムに引き続き行われた賑やかで活気に満ちた懇親会で、さらにより一層深められていきました。

(千葉 翼)



今年も200名を超える方々が参加。関心の高さがうかがえました



主催者挨拶に立つ佐久間理事長



会場からもたくさんの質疑が寄せられました



行政、医療機関、NPOなど業態、業種を超えた連携が火急の課題であることが確認されました

2. 平成20年度山谷地域敬老会に参加して

9月13日(土)、平成20年度山谷地域敬老会が開催されました。毎年1,000人を越える参加者が集う大きなイベントで、天候に恵まれた今回は1,117名が参加しました。主催の城北労働・福祉センターをはじめ、城北旅館組合、敬老会ボランティアネットワーク(訪問看護ステーションコスモス・山友会・山谷マック・千寿苑・ふるさとの会)から多くのスタッフが集まり、当日の運営を行いました。

当日は12:00開場にもかかわらず、来場者が午前中早くから並び始めました。3階会場まで階段をやっと上ってくる方、元気になってくる方、付き添いの方と上ってくる方、皆それぞれが待ちかねた様子でした。

今年も演芸会に先立ち、台東保健所の保健師の方から「結核について」の講演がありました。歌が始まると最初は皆あまり反応していない様子でしたが、だんだん手拍子が始まり、盛り上がってきました。『麦畑』の大ヒットで有名な『オヨネーズ』が歌の合間に健康体操を取り入れると、かなりのお年寄りの方まで参加して手を握ったり開いたり、楽しそうに、ちょっぴり真剣に参加していました。『オヨネーズ』は軽妙なトークで皆を笑わせたり、聴衆といっしょに踊ったりと、観ている人を飽きさせない工夫をされており、さすがプロと感心させられました。

演芸会は、梅一会のかっぽれ踊りに始まり、簡易宿泊所にお勤めの明石詩子さんの歌、NOAHさんの歌、柳一郎さんの歌と踊り、香川美佐子さんの歌、最後にオヨネーズがヒット曲「麦畑」と「殿様キングスメドレー」を熱唱し、大盛況の中、終演しました。今年も事故もなく、無事敬老会を終えることができ良かったです。「また来年も来るよ」と笑顔で帰って行く人もおられました。山谷にお年寄りがいる限りずっと続けてほしいイベントです。

(なお、イベントの取材・写真の提供についてはセンターすみだの館野職員の協力を得ました)
(馬場英夫)



満員御礼！



椅子席、敷席次々に会場は埋まっていきます



オヨネーズの軽妙なトークに観衆も徐々にステージに注目

3. 帰宅困難者対応訓練参加報告

9月23日爽やかに晴れた秋分の日、東京災害ボランティアネットワーク主管のもと『首都圏帰宅困難者対応訓練』が行われました。この訓練は首都圏に大地震が起きた場合、負傷者だけでなく多くの帰宅困難者が発生すると想定し、都心から十数キロのコースを歩きながら市民一人ひとりの防災意識を高めようという目的で開催されました。

ふるさととの会も今年で5回目の参加となり、全4コース（東京コース・神奈川コース・千葉コース・埼玉コース）の内、千葉コースの仙台堀川公園にエイドステーションを設営し、テントの設置、休憩所の確保、情報伝達訓練の為にボードの設置などを行いました。また訓練参加者の為に水のペットボトル・アセロラドリンクの提供、コース及びトイレの案内などを行いました。千葉コースは日比谷公園を出発し、ゴールは新浦安駅前市民広場までの約17.9kmのコースで、仙台堀川公園はその中間ぐらいに位置するエイドステーションです。

10時に出発した参加者は12時頃には仙台堀川公園に到着しました。待ち構えていたふるさととの会職員をはじめとするボランティアスタッフは大声で、「お疲れさまでした！」「飲み物を飲んでいってください！」「ドリンクを勧め、ほとんどの参加者がドリンクを手にし、休憩用に敷いたブルーシートに腰掛けたり寝そべったりして、5面敷いたブルーシートは参加者で溢れかえりました。その中で特に参加者の皆さんに励ましの声援を送っていたのが、ふるさととの会の就労支援事業参加者である2人の男性でした。2人とも沿道に立ち、参加者に親切に道案内し、疲れている人には「頑張ってください！」「と励まして、参加者からも「どうもありがとう、頑張ります！」「と声をもらい、コミュニケーションを楽しんでいました。1人は、「知らない人に声を掛けるのは始めは恥ずかしかったけど、ちょっとした勇気でたくさんの人達と話ができて、感謝されるのは気持ちがいいね！」「とニコニコ顔で話していました。またもう1人に「参加して如何ですか？」と聞いてみたら、「人の為に汗をかくのはいいものだね！」「とはにかみながら答えてくれました。

2人は今回の訓練への参加により、地域の人達と接点を持つことができ、この経験は今後自立していく上で大きな自信になると思います。また2人の言葉を聞いて、ふるさととの会の職員として一緒に仕事ができるようになったと思うと同時に、いざ災害が起って提供する物資が無くても、言葉で励ますだけでも困っている人達の大きな力になるんだと改めて感じました。

ここ数年、日本や世界で大規模な地震災害が多発しています。日本では最近宮城県や新潟県で起っています。今後、首都圏ではいつ大地震が来てもおかしくないと言われています。首都圏で大規模な地震が発生した場合、帰宅困難者の数は650万人にもものぼると推測されています。ちょっと想像がつかない人数です。もし首都圏で大地震が来たら自宅に帰ろうとする人達で駅や道路は大混乱になりパニックになるでしょう。災害時、路上生活をされている方たちはどうするのか。私たちに何が出来るのか。

本日の訓練で帰宅困難者の課題や問題点が全て分かるわけではありません。しかし、今回の訓練を通して一人一人がいざ災害が起った場合をイメージし、その時自分はどう行動すべきか考えるきっかけになったと思います。

(滝澤健一郎)





エイドステーション設営開始

準備万端整いました！



飲料提供は大事な役目です



徒歩帰宅訓練参加者に声をかけて励まし情報提供訓練を行う

4. 厚労省科研研究会にて事業説明

9月30日、内幸町の国立社会保障・人口問題研究所において、厚生労働科学研究費補助金「医療・介護制度における適切な提供体制の構築と費用適正化に関する実証的研究」の研究会に瀧脇が講師として招かれました。まず問題提起として、生活保護・高齢低所得者が、病気や障害などの重複により、生き幅が狭められ、都内の居住確保が困難になっていること、そして問題解決の方向性として、居住支援と地域ケア連携の総合、すなわちCDC事業の展望を提案しました。

また、稲田七海氏（大阪市立大学都市研究プラザグローバルCOE特別研究員）の研究報告「特化型宿泊所事業におけるケアの展開-自立援助ホームの実践から」を受けて、参加者からは、高齢者の生活では、「介護」「社会福祉」などの要素に対し、「住まい」が無視されてきた。施設が在宅かという二者択一でなく、これからは住まいの多様性やコストを考えなければならないという意見が出されました。

ケアコストの研究については、ふるさとのが行っている「ケア付就労」などは常勤職員の給与体系に換算するべきであり、また評価額についても人件費だけで計算すると低く見積もることになる、など、次から次へと議論が展開し、ついていだけでも大変です。

東京の被保護者・低所得者が他県の「施設」に流出する現象に対しては、現在は「売り手市場」のため、どういサービスをするかは提供者次第になってしまっているという指摘がなされ、提供者の恣意性を超えた、ネットワークで支える仕組み=CUCSが担保する社会性・地域性について期待が寄せられたのではないかと思います。

研究会には社人研の研究者のみならず、地理学、公衆衛生学などの研究者、医師など各領域の第一線で活躍されている方々が参加されておられました。そのような緊張感のある場に同席させていただいたことに感謝したいと思います。

（瀧脇 憲）





5. ヘルパーステーションふるさと・宿泊所合同研修

9月24日(水)にヘルパーステーションふるさと・宿泊所合同研修が行なわれました。今回は初めての合同研修という事でヘルパーステーション18名、宿泊所5名、給食センター1名が参加しました。

今回の研修では佐久間ふるさとの会理事長によるパワーポイントと使用しての、『疥癬とは?』から始まり、症状、実際の疥癬の状態や特徴を勉強し、もし感染してしまった場合や予防についても勉強しました。あくまで虫による感染なので、過剰に怖れず、正しい知識を持ち、冷静に対応する事を確認しました。次に宿泊所よりふるさとホテル三晃の辻職員による、三晃での事例報告があり、医師、訪問看護師、ヘルパー、職員とが連携したその後の対応について説明がありました。

高齢者などADLの低下している方や精神疾患などで感染症に対して比較的弱いと思われる方が増えている中で、対応について職員が共通認識を持つことの重要性を感じました。今後も医療機関などと連携を密にし、集団感染を防いでいこうと思っています。

(松崎弘明)

6. 今月のボランティア

いつもお世話になっております。ボランティアサークルふるさとの会です！このあいだ夏祭りが終わったと思ったら、もうすでに秋深し、という感があります。さて、ふるさとの会ではこの晩秋から冬にかけ、3つのイベントを予定しています。

1. 11月3日(月)文化の日 『みんなのひろば祭り』売り子

台東区の入谷南公園で開催される「みんなのひろば祭り」への参加。ボランティアサークルふるさとの会で毎年参加しているイベントです。ふるさとの会では毎回モツ煮込みの屋台を出しています。台東区のあらゆるボランティア団体が参加し、様々な屋台やバザーが出て、舞台上では歌や踊りが繰り広げられる大きなイベントです。モツ煮込みの屋台の販売でボランティアの方を募集しています。是非参加してみませんか？



2. 11月23日(日) 『日帰りバス旅行』参加者付添 3名

敬老室の利用者の方といっしょに出かける日帰りバス旅行を予定しています。昨年は成田山新勝寺に行き、30名の利用者の方が参加しました。今年の行く先は現在検討中ですが、決まり次第お知らせします。貸し切りバスで約40名募集です。利用者の方々と語らう良い機会です。こちらはバスの定員がありますのでボランティアの方を3名まで募集いたします。

3. 12月29日～1月3日までの6日間 『ふるさとの会越年祭り』参加者大募集！

恒例の越年冬祭りを開催します。路上生活者の方を対象に、炊き出しの配食や物資の供給を行います。この活動の目的は、彼らが少しでも元気になって前を向いて行けるための元気づけと、ふるさとの会と彼らの関係づくりです。今は福祉事務所へ相談に行くことを踏み出せずにいる方が、いざ思い立った時にお手伝いできるための関係づくりです。この冬祭りに、お力を貸してくださるボランティアの方を大募集します！内容は以下のとおりです。また、この行事は全てボランティアのキャンパで運営されており、毎年資金繰りが大変困難な状況です。しかし今後なんとか継続したいので、人材面はもちろん、資金面での協力、また食材や衣類などの物資のキャンパも、どうかよろしく願いいたします。

<ボランティア活動内容>

- * あたたかい食事づくり(毎日違うメニューです！料理経験は問いません)
- * 炊き出し配食&路上生活者の方々との交流
(言葉を交わして、彼らへ新しい風を送ってください)
- * 路上生活者ききとり調査(アンケートをとります)

<活動期間>12月29日から1月3日まで

午前8時30分～午後5時(1日だけの参加OK)

朝8時30分集合ですが、参加時間は応相談です。

12月28日と1月4日も準備と後片付けのボランティアの方を募集しています。

<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会（担当：町田／馬場）
 TEL 03-3801-0377 FAX 03-3801-0881
 E-mail boranteahurusato@gmail.com
 ふるさとの会HP <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>
 <カンパ振込み先> 郵便振替 00260-5-63218 ふるさとの会



隅田川河岸で行う炊き出しの様子



越年祭りでは利用者さんの初詣にも付き添います



台東区内の様々な団体が一堂に



名物ふるさとの会煮込みはいつも大人気



寒い中一杯の温かい食物が心まで暖めてくれるよう

発行元：特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
 〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6
 TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950
hurusato@d5.dion.ne.jp
 HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>